

それから歩るきましたら、三養基中學の生徒が、狂人でもないと思つたらしゆ御座んした。
白い地下足袋の丈夫なのを一足買ひました。

菓子屋の主人は私費を投じて、大師堂を新建してゐました。

ネイ、お前さんも若いのに信心家ぢや。

村の床屋は熊の皮を壁に掛けてゐた。

和尚は酒飲んで、朝までに死んでゐた。

石塔院の周囲は田ん圃で、麥藁家が二三軒ある。

和尚の未亡人は四十二三で鼻が少し赤かつた。

踏み切りを越えて川に沿ふて行くと、所在に風呂小屋がある。

夕となればブスブス煙りが上るのである。

懷良親王の眞筆が、近所の寺にあるので、俺は見せて貰ひに行つた。

佐賀の圖書館に麥茶があつた。

本堂の板の間にねた。